くも腫瘍が存在し、レ線像に骨の構造上の変化を認めた場合は、躊躇なく biopsy による組織検査を行い診断を確立すべきであることを、本例を経験するに及び特に強調する。

最後に予後について von Matolcsy, Coley 及び Carrol は手に原発する骨肉腫は稀であるが治療による生存は他の部位における骨肉腫よりも 10 乃至 20% 大であり、またほかの部位に比して手術による危険も少なく、術後の機能障害の程度も軽度であると記載している。本例は再手術の際始めて肉腫であることを発見し、既にレ線写真により肺転移が認められたため、手術後僅かに 1 年 1 カ月にして死亡したことは比較的予後の良い手の骨肉腫であつただけに惜まれる。

む す び

48 才の腰椎カリエス患者の手掌に発生した骨肉腫を骨結核と誤り治療した 1 例を報告した。

骨腫瘍の診断にはレ線写真とともに biopsy による組織検査が必要であることを痛感した。

手指の骨に肉腫が原発することは稀とされ、たまたま本例を経験したので先人の報告に追加した。

(稿を終るにあたり御懇篤なる御指導、御校閲を賜

つた整形外科医長糟谷博士並びに橋倉博士に深甚なる謝意を表し、また御指導頂いた病理検査室橋本博士に感謝致します)。

文 献

- 1) Thomson A.D. : J.B.J.S. 37-B 195, (1955)
- 2) 天児民和 : 日本外科全書, 8 巻, 骨及関節の疾患, (昭 30)
- 3) Edgar M. Bick : Ann. Surg., 101, 759, (1935).
- 4) Joseph L. Posch : J.B.J.S. 38-A, 517, (1956).
- 5) Lewis : Practice of Surg., vol II, III, V, (1955)
- 6) Lichtenstein : Bone tumors, (1952)
- 7) 三木威勇治 : 癌の臨床, (1957)
- 8) 茂木蔵之助 : Spezielle Chirurgie, III. Band. (昭 8)。
- 9) Pack G.T. : Surgery, 31, 443, (1952).
- 10) Robert E.C. : J.B.J.S. 39-A 325, (1957)
- 11) Schinz : Lehrbuch der Röntgendiagnose, (3), (1953).
- 12) Simon : Die Sarkome, (1928).
- 13) 横倉誠二郎 : 骨疾患のレ線診断, (昭 27)
- 14) MacCallum W.G. : A Textbook of Pathology, (1941).

2-Acetylamino-5-nitrothiazol (エーワ錠) による

トリコモナス膣炎に対する治療成績

(指導 都立墨田病院産婦人科医長 古沢 嘉夫)

日本医科大学薬理学教室 薬 師 寺 猛

Takesi Yakusizi

都立墨田病院産婦人科 寺 島 達 夫

Tatuo Terasima

婦人科外来に於いてトリコモナス膣炎の治療は困難であり、現今まで種々の外用療法が紹介され、近時非常に良好なる治癒率を示すものが報告されているがなお完全治癒には至らず、治療中止により再発することが少なくない。その再発の原因としては、膀胱・尿道などに寄生していた病原虫が局所療法では影響を受けずに腔内に侵入するため、或いは腔内の病原虫が球形化し、非病原性の所謂「トリコモナス永久型」として腔組織に潜伏し、腔内で繁殖するためであるとか、又は男性の尿道・膀胱に寄生せる病原虫が、性交によつ

て腔内に侵入し繁殖するとか、或いは又トリコモナスが頸管内を上昇し、局所療法の影響を受けない等々の理由が挙げられている。従つて、完全な治療を行うには、局所療法だけでは不充分であると考えられ、又一般にも認められている。

膀胱・尿道・腔組織・頸管内などに潜伏せる病原虫までも完全に撲滅せしめるためには、全身的な抗トリコモナス剤の出現が望まれていた。この目的に今迄すでに数種の薬剤が試みられている。Rodecurt¹⁾によれば、アセタルゾン(スピロチード)は75%の治療効果

があるといわれ有望であるが、その他の砒素剤であるホーレル水、砒酸ソーダ、マファルゼン、カルバルソン等はいづれも無効であると Pattyson²⁾ は報告している。なお、Ackermann³⁾ によればサルバルサンも無効であるという。砒素剤以外のものでは、塩酸キニーネは、T. Vaginalis より T. hominis に有効であると、Rodecurt⁴⁾ が報告している。Strain⁵⁾ は尿路感染に用いられていたマンデル酸カルシュウムはトリコモナスに8例中7例の割合で効果があつたといっている。ウロトロピン、燐酸ソーダは Allen & Braun⁶⁾ によれば無効である。さらに内服で効果のある抗トリコモナス剤として 2-Acetylamino-5-nitrothiazole があり、これは既に Tritheon なる名称で市販され、その治療効果についても報告⁷⁾ されている。今回エーザイ株式会社より 2-Acetylamino-5-nitrothiazole を1錠中 100 mg 含有する内服用エーワ錠の提供を受けたので、その治療効果について実験を行い、一定の成績を得たので茲に報告する。

尙 2-Acetylamino-5-nitrothiazole は

溶融点：270°C

溶解度：水、アルコールに僅かに可溶、稀アルカリ性溶液に可溶

形 状：黄色粉末

安定度：日光、熱に対して安定、アルカリ性溶液中では不安定で分解する。

なる化学的性質を有している。

実 験 方 法

実験材料：帯下又は掻痒を主訴とするトリコモナス膺炎で他に異常を認めない患者 28 名を対象として行つた。ただし妊娠中のもの 9 名を含む。

検査方法：生理的食塩水を滴下した載物グラスに後腔穹窿部より採取した腔内容物を混和し、デッキグラスを載せ、さらに1枚別の任意の箇所より、腔内容物を採取し、同様処理後、2枚の被検物について顕微鏡下でトリコモナスの有無を検した。私達の経験よりすると鏡検法と培養法との間にさしたる開きを認めないので、今回は鏡検法のみとした。

投与方法：エーワ錠を毎食後一錠づつ1日3回投与内服せしめ、10日間継続した。その間検査後に腔内を浄水にて洗滌した。

効果判定：10日間投与後、毎週1回検鏡し、トリコ

モナスを発見したものは、すべて⊕、発見できなかったものを⊖とした。最終判定は3週～4週目に行つた。

No.	患 者 名	年 令	初 經 産 別	妊 娠 の 有 無	主 訴 症 状	自 消 失 症 日 状 数	ト リ コ モ ナ ス 消 失 日 数	全 使 用 日 数	10日間服用 後毎週のト リコモナス				副 作 用
									1 週	2 週	3 週	4 週	
1	鈴木	26	⊖	⊖	帯下 出血	1	1	10	⊖	⊖	⊖	⊕	無
2	真貝	40	⊕	⊕	帯下	1	1	"	⊖	⊕	⊕	⊕	"
3	岡村	17	⊖	⊖	帯下 掻痒	0	0	"	⊕	⊕	⊕	⊕	"
4	丸山	41	⊖	⊕	帯下 掻痒	1	1	"	⊖	⊕	⊕	⊕	"
5	鳴島	22	⊖	⊕	帯下 掻痒	1	7	"	⊖	⊕	⊕	⊕	"
6	吉田	29	⊖	⊖	帯下	1	1	"	⊖	⊖	⊖	⊖	"
7	城戸	22	⊖	⊖	帯下 掻痒	1	1	"	⊕	⊕	⊕	⊕	"
8	斎藤	23	⊖	⊖	帯下	1	1	"	⊖	⊖	⊖	⊖	"
9	吉田	24	⊖	⊕	帯下 掻痒	1	1	"	⊖	⊖	⊖	⊕	"
10	小川	29	⊖	⊕	帯下 掻痒	1	1	"	⊖	⊖	⊖	⊕	"
11	柳原	17	⊖	⊖	帯下 掻痒	1	1	"	⊖	⊖	⊖	—	"
12	野口	42	⊕	⊖	帯下 掻痒	1	3	"	⊖	⊖	⊖	—	"
13	山岡	25	⊖	⊖	帯下 掻痒	1	3	"	⊖	⊖	⊖	—	"
14	沢城	27	⊕	⊕	帯下 掻痒	1	1	"	⊖	⊖	⊖	—	"
15	沖津	34	⊕	⊕	帯下	3	3	"	⊖	⊖	⊖	—	"
16	酒井	18	⊖	⊖	帯下	1	0	"	⊕	⊕	⊕	—	"
17	高橋	23	⊖	⊖	帯下	1	1	"	⊖	⊖	⊖	—	"
18	平畑	27	⊖	⊕	帯下 掻痒	1	0	"	⊕	⊕	⊕	—	"
19	大塚	28	⊕	⊕	帯下	1	1	"	⊖	⊖	⊖	—	"
20	宮下	40	⊖	⊖	帯下	1	1	"	⊖	⊖	⊖	—	"

治 療 成 績

被験者は 20 名ですべて自覚症状を訴え、トリコモナスを証明したものであつて、その内妊娠しているものは9名である。

トリコモナスの腔内からの消出は早く、20 名中 13 名は投与翌日すでに証明できない。3日目消失は3名、7日目消失は1名、全然消失しないものが3名である。従つて第1次治療率は 85% である。

自覚症状は 18 名が投与翌日消失、1名は3日目に消失、残りの1名は全然消失しなかつた。

効果の最終判定日3週～4週後までに再発せず治療

せるものは 20 名中 10 名で 50% の治癒率を示し、残りの半数が治癒せざるか又は再発したものである。この中 1 週目に再発したものは 1 名で、2 週目に再発したものは 3 名、3 週目の再発は 0、4 週目の再発は 1 名であり、全然治癒しなかつたものは 3 名である。

考 察

以上報告せるごとく内服用エーワ錠投与のみによつて、トリコモナス膣炎の治癒にあたり、3 週～4 週後までの治癒率 50% という成績を得た。これはトリコモナスの検出方法が異つてはいるが Plentl 等⁷⁾ のいう治癒率 38% よりはよい成績である。

外用療法を併用すれば、もつとよい治療効果をあげることが不可能ではないと考えられる。尙婦人の服用に併行して、男性にも同様に投与すれば、再感染を防止し、治癒率を上げることが出来得るのではないかと考えられる。

副作用については、Plentl 等は 2-Acetylamino-5-nitrothiazole を同様投与して、嘔気、腸痙攣、食欲不振等を見、12% の使用継続不能者を出したと報告しているが、私達の場合副作用を訴えた患者は 1 名もなかつた。

結 語

トリコモナス膣炎に対して内服エーワ錠を毎食後 1

錠 (2-Acetylamino-5-nitrothiazole 100 mg 含有) づつ 1 日 3 回投与し、10 日間継続せしめ、第 1 次治癒率 85% を認め、その後治療処置を加えないで 3 週～4 週後の検査では一旦消失せる 17 名中 7 名が再発したので治癒率は 50% を示している。

全然原虫が一時的にも消失しないものが 20 名中 3 名あつた。副作用は全く認められない。

終始御懇篤なる御指導並びに御校閲を賜つた墨田病院産婦人科医長古沢嘉夫先生に厚く感謝致します。

参 考 文 献

- 1) Rodecurt, M.: Ztschr. Geburtsh. u. Gynäk. **112**, 362 (1936).
- 2) Pattysen, R.A.: New York J. Med., **37**, 41 (1937).
- 3) Ackermann, A.: Dermat. Ztschr., **71**, 132 (1935).
- 4) Rodecurt, M.: Ztschr. Geburtsh. u. Gynäk. **107**, 217 (1934).
- 5) Strain, R.E.: J. Urol., **54**, 483 (1945).
- 6) Allen, E. & Braun, H.C.: Amer. J. Obstetr. & Gynec., **45**, 246 (1943).
- 7) Plentl, A.A., Gray, M.J., Neslen, E.D. & Dalali, S.J.: Amer. J. Obstetr. & Gynec., **71**, 116 (1956).

多 発 性 骨 髄 腫 の 1 例

東京都立大塚病院内科 (医長 伊藤栄一)

渡 部 近 衛

Konoe Watanabe

緒 言

1889 年 Kahler の記載に始まる本症は全骨髓系に亘り散在性に発生する原発性腫瘍であつて、腫瘍を形成する細胞の種類により Myeloblastom, Myelocytom, Erythrocytom, Lymphocytom と呼ばれていたが、形質細胞によるものが最も多く、形質細胞腫と呼称するものもある。

米国血液学用語委員会⁽¹⁾に於ては形質細胞性骨髓腫なる名称を提案している。本腫瘍は網状繊維細胞系より発生するものと看做されているが Jores u. Bruns⁽²⁾ は淋巴性白血病との間に移行型の存在を指摘し、骨髓の系統的疾患と推断し、Sandkühler⁽³⁾ は形質細胞又

は同一系統の細胞の悪性腫瘍様増殖であるという。私は偶々本例の 1 例を経験したので報告する。

症 例

氏 名：山○ 久○ 48 才 ♀

主訴：腰痛及び左右坐骨神経痛

家族歴：特記するものがない。

既往歴：21 才の時左胸膜炎に罹患し、その後元気に経過している。

現病歴：昭和 29 年 5 月頃から左右下肢に放散する神経痛様疼痛があり、歩行時に疼痛が増強した。漸次羸瘦、食思不振、倦怠感、四肢関節の疼痛が著しく同年 10 月 2 日需診した。